

健診検査センターニュース

No.571 号

運営委員会より

3月16日（木）平成28年度第12回の運営委員会を開催いたしました。

1. 特定健診2月の実施件数は、下記のとおりです。

	2月受診数（前年比）	累計（前年比）	函館市国保受診率 2月現在 21.62% / 目標 30.0%
函館市国保	1,394人(Δ320人 81.3%)	11,322人(Δ684人 94.3%)	
後期高齢者	602人(112人 122.9%)	5,574人(282人 105.3%)	
その他	107人(Δ60人 64.1%)	1,945人(Δ192人 91.0%)	
合計	2,103人(Δ268人 88.7%)	18,841人(Δ594人 96.9%)	

実施機関：95／登録機関 101

- 2月の受診者数は、2,103人と前年に比べ268人の減少となりました。
- 平成29年度「函館市国保・後期高齢者・生活保護受給者」に係る特定健康診査実施医療機関の登録につきましては、後日「函医ニュース」でご案内いたします。

2. 29年2月の健診検査事業収入は、下記のとおりです。

	2月（前年同月比）	28年度累計（前年比）
一般検査収入	81.6 %	88.7 %
健診収入	87.4 %	102.9 %
合計	84.2 %	95.1 %

- 3. 4月1日から専従医師として鈴木朗子先生が赴任されます。
- 4. 函館市医師会員・家族並びに従業員の定期健康診断（二期目）は、26医療機関から96名の受診があり、28年度受診者数は一期目、二期目合わせて過去最高の523名となりました。
- 5. 平成28年度（第50回）日本医師会臨床検査精度管理調査の総合評価は、99.5点でした。
- 6. 公益財団法人JK A「平成28年度検診車の整備事業」に係る検診車の引渡式が平成29年3月1日（水）午後1時30分から函館市医師会館で開催されました。
※導入された検診車は道南で初の小型胸部デジタルX線検診車であり、市内の狭所にも対応できます。
- 7. 日曜、祝日の日直体制が変更となりますので、宜しくお願いいたします。詳細は別紙をご参照ください。

《 ちょっと一言 》

春分の日も過ぎ、日差しに春を感じるようになった3月22日に函館性暴力被害防止対策協議会が発足しました。この協議会の発端は、昨年12月に当医師会主催の各界代表者との懇談会で道警函館方面本部長小笠原和美氏が性暴力被害対応チームを道南に作ることを提案したことでした。工藤市長と本間医師会長がすぐに賛同してくださったことで、当地での性暴力対策は飛躍的に進歩する可能性が出てきました。性暴力というと皆さんは自分には関係ない、と思っていませんか？産婦人科には緊急避妊を希望して受診する患者さんがそこそこいますが、緊急避妊が必要になる事例では、背景に性暴力ありが多数です。「酔って寝ている間に夫が勝手にやったらしい」「彼にコンドームをつけてと言ったが膣外射精された」などは日常茶飯事です。真の合意のない性交渉は全て性暴力なのですが、被害者も加害者も性暴力と認識していない事例も多数あります。

皆さんがイメージする性暴力は、「夜道で見知らぬ人に強姦される事件」でしょうが、実は多くの性暴力は「知っている人」が加害者です。また性虐待である小学生以下の被害が一定数あることも事実です。

「性暴力」「子どもへの性行為」「墮胎」の三つは、ヒト以外の動物ではありえない行為と言われています。動物の世界ではメスに拒否されたオスは退散するしかないので。メスはより強く優秀なオスを選択します。弱肉強食が野生の世界のルールです。ヒトは集団生活の中で弱い者を相互扶助することで安定した社会を作ってきましたが、繁殖に関してはなぜか野生動物よりも野蛮な行為が存在します。

性暴力被害を誰にもどこにも相談できないまま精神疾患になってしまう被害者がたくさんいます。道のりは遠いですが、この地域から性暴力の被害者も加害者も出さないことが協議会の最終目標だと思います。函館市医師会はこの協議会の主要メンバーです。どうか、皆さんのところに協力要請があった場合は、快くご協力をお願いします。「自分は性暴力のことなんかさっぱりわからん」という方も大丈夫、これから勉強すればいいだけです。

(文責 小葉松洋子)

一般細菌検査におけるサルモネラおよび腸炎ビブリオ報告内容変更のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。
この度、下記の一般細菌検査項目におきまして、報告内容を変更させて頂くことになりました。

何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

変 更 日 : 平成 29 年 4 月 1 日 (土) ご依頼分より変更

【サルモネラについて】

サルモネラ属が検出された場合、O 抗原（菌体抗原）と H 抗原（鞭毛抗原）の両方の血清型から菌種を決定し報告する形をとっておりましたが、近年の細菌検査分野の動向として H 抗原の血清型まで分ける必要性が重視されなくなり“サルモネラ症(3類感染症の起因菌である腸チフスおよびパラチフスA以外)”の起因菌については O 抗原の型別同定のみ実施し“Salmonella sp”と血清型を合わせて報告する形式が主流となってきた背景を鑑み、以下の報告内容に変更させていただきます。

新	旧
例：Salmonella sp. (O4 群)	例：Salmonella typhimurium (O4:l; 1, 2)

※尚、診断上重要な3類感染症の腸チフスおよびパラチフスAについては、O 抗原のほかに H 抗原の血清型も同定に必要なため、従来通りと致します。

菌名	報告形態
腸チフス	Salmonella typhi, O9[Vi]:d;-
パラチフスA	Salmonella paratyphiA O2:a;-

【腸炎ビブリオについて】

腸炎ビブリオの血清型報告につきましても、サルモネラ同様に K および O 抗原の型別検査は廃止し、菌名報告のみとさせていただきます。

新	旧
例：Vibrio parahaemolyticus	例：Vibrio parahaemolyticus (O 抗原-2, K 抗原-3)

休日の検査受付体制の変更について

休日当番の医療機関様への対応(至急検査等)を強化するため、休日の検査受付体制を下記に変更いたします。

	9:00	12:00	17:00
検体回収 検査体制	即 応		
職員配置	回収担当者 1名 検査担当者 1名		

- 休日の9:00~17:00の時間帯は回収担当者と検査担当者が常駐し、検体回収や検査のご依頼がありましたら、即時に対応いたします。
 - ※【上記時間帯以外でも可能な限り対応いたします。】

- 検査結果の報告体制（FAX報告）
 - 末梢血液一般：検査材料がセンター到着後、約10分~15分
 - 生化学的検査：検査材料がセンター到着後、約30分~40分
 - ※ 生化学的検査項目について
自動分析装置を上記の即応時間内は常時測定可能な状態とし、迅速報告可能な検査体制といたします。

- 詳細につきましては、総合検査案内書の検査依頼要項をご参照ください。

公益社団法人函館市医師会 函館市医師会健診検査センター
TEL 0138-57-6571・FAX 0138-57-6580
E-mail: info@hma-labo.jp